

目的 特殊な体型にある妊婦の衣服に対する生産者の関心は薄く、いまど規格化されたサイズさえもない現状である。そこで筆者らは妊婦の身体計測を行い経月変化にともなう妊娠体型の詳細な情報を把握して、適合度の高い妊婦用衣服の設計のための基礎資料並びに多方面の利用に供することを目的とする。

方法 被験者は1980年7月～1981年4月にかけて京都市内の産婦人科病院に検診に訪れた妊娠7週から出産に至る妊婦1000人である。なお4週間毎の計測のため、資料は同一被験者の最高7回の計測を含んだ延べ員数である。被験者の57%は30才未満で、全体の50%は初産婦である。計測項目は体型変化の把握および衣服設計に必要な項目として、高径、肩径、幅径、長径その他合計46項目である。

結果 1. 体型に関して詳細な情報を得るために2項目間の相関マトリックスを求めて各妊娠月数間の体型変化を検討した。たとえば、未だ体型変化のみうれない3ヵ月で無相関であった部位が10ヵ月で最高0.5の相関係数を示す項目は、矢状径と長径との間にみうれた。また3ヵ月で0.8以上の高い相関を示したものが、10ヵ月で最低0.5の相関係数を示す項目は、主に各部の矢状径と肩径との関係にみうれた。このように体型変化とともに高くなる部位と低くなる部位があらわれる。2. 多数項目間の総合的情報の月別変化を得るために主成分分析を行い、因子負荷量の配置および各成分別のスコアを検討した。

3. さうに同一人の経月変化する体型の特徴を詳しく調べるための分析をし、部位別の傾向を把握することができた。胸囲、腹囲は月別の増加の著しい部位である。